

令和7年度介護職員の働きやすい職場環境づくり
内閣総理大臣表彰及び厚生労働大臣表彰

特別養護老人ホーム向島美郷

(社会福祉法人 美郷会)

2000年 月 日



TABLE OF CONTENTS

- 01 背景と目的
- 02 取組事例
- 03 取組内容
- 04 取組スケジュール
- 05 取組の効果
- 06 まとめ

【施設概要】

施設名称 特別養護老人ホーム 向島美郷
施設種別 特別養護老人ホーム（ユニット型個室）
定 員 29名
開設日 2016年2月1日
併設事業 ショート、デイサービス、小規模多機能、訪問介護、
居宅介護支援 など

01 背景と目的

[背景]

向島美郷は開設から10年となり、介護職員の高齢化や入居者さんの介護度の増加により、身体的負担が大きくなってきた。特に腰痛の症状がみられる職員が増加しており、長期傷病や腰痛を理由とした退職も少なくなかった。

それに加え、認知症高齢者の入居者さんも増え、精神的負担も増えている。

以前より法人全体で生産性向上の為の研究や取り組みを行っているケアサポート委員会メンバーである介護主任からの発案で活動がはじまった。

[目的と重要性]

<身体的負担の軽減>

介護現場で課題であった介護士の腰痛に対して、福祉機器・用具を活用し、負担の軽減を図ることで介護職員が安心して長く働くことができる職場づくりが出来る。

福祉機器・用具の定着化できるまでのプロセスが重要であり、研修会の実施で職員の意識改革を行っていく事が腰痛軽減につながる事ができる。

また福祉機器・用具を実際に体験し、職員が安楽である事は使用される入居者さんにとっても安楽である事を職員自らが体験しその重要性を理解する。

<業務改善>

タブレット記録・情報共有システムにより、記録作業や情報共有の効率をあげることができる。これにより入居者さんへの直接支援に対して余裕を持って対応できるようになり精神的負担も軽減につなげていくことができる。

02 取組事例

向島美郷で長く働いていく為の「**身体的負担軽減**」の意識改革や福祉機器の定着化
介護記録のタブレット化による「**業務改善**」で各職種間の情報共有化と直接支援の質向上

取組	目的	実施検討時の職員からの声
移動支援機器の導入	意識改革と定着化の入り口として 誰でも簡単で安全な用具を選択	「時間がかかってしまう」など 後ろ向きな意見も一部あった
床走行式リフトの導入	定着化が浸透してきた中で、 「ノーリフト」を掲げ、腰痛軽減	慣れるまでに時間かかりそう だが、身体的には楽になった
タブレット型介護記録 システムの導入	入居者さんに余裕をもって携われる 支援ができるように	空いた時間でコロナ禍の中で できなかった外出やイベントなど 喜んでいただける企画をたくさん 行いたい

03 取組内容

移動支援機器の導入

腰痛軽減に向けての福祉機器・用具の選定に関しては、「介助支援に時間がかかる」などの意見もあり、まずは、抵抗感のある職員でも使用しやすい簡単で安全な用具を選んだ。その結果、福祉用具に対する苦手意識の改革にもつながった。また、使用方法だけでなく、介助される側である入居者さんの体験をしてもらう事で、双方にメリットがあることを理解し、介護職員の福祉機器の使用頻度が上がった。



03

取組内容

床走行式リフトの導入

福祉用具への意識が変わり定着化が根付いてきたところで、現場の意見も踏まえて、床走行式リフトを導入した。
導入前には不安なく使用できるよう研修会を実施した。



03

取組内容

タブレット型介護記録システムの導入

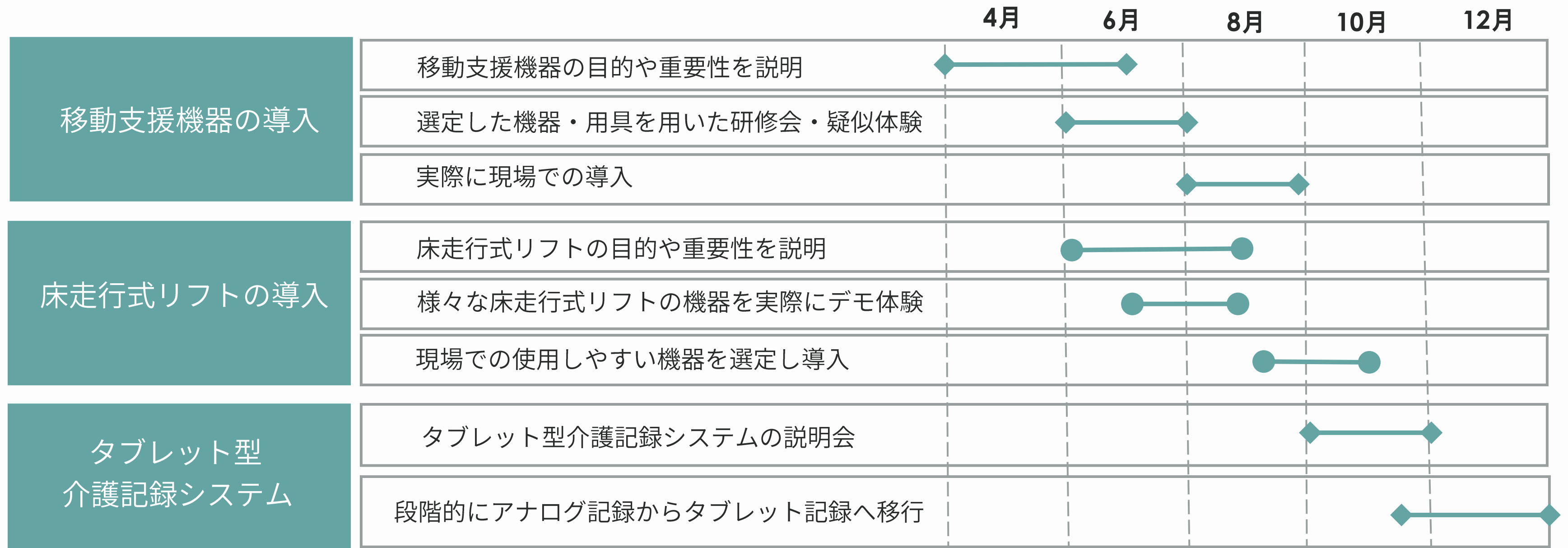
入居者さんお一人おひとりに記入していた介護記録を手書きからタブレット型介護記録に移行した。パソコンが苦手な職員もいるが、スマートフォンに近い形での記録方法は大きな抵抗なく、また段階的手書きからタブレット型に移行し、少しずつ慣れていけるよう進めた。

導入に関してはテレビ電話や説明を録画した動画を用い、全職種・全職員が参加した。

記録業務が大幅に時間短縮され、その分を直接介助支援やレクリエーションに費やすことが可能になった。



04 取組のスケジュール



05

取組による効果



<外出企画スペシャルデイ>
元職場の淀競馬場へ

[取組による効果やメリット]

職員の意識改革

○2019年度腰痛予防アンケート
福祉用具を活用できているか **31%**

○2025年度腰痛予防アンケート
福祉用具を活用できているか **88%**

腰痛予防・軽減

○2019年度腰痛予防アンケート
慢性的腰痛を感じる **62%**

○2025年度腰痛予防アンケート
慢性的腰痛を感じる **51%**

業務改善

○タブレット導入により
特養（併設サービス含む）で
1日あたり210分
1か月で **108.5時間**の削減ができた。

入居者支援の充実

<外出の企画が充実>

○コロナ禍による影響もあったが、
2025年度の外出イベントや地域との交流
は前年度と比べ **112%**となった。

06

まとめ

職員の腰痛をなんとかしたいという課題は施設としても現場としても解決したい共通の事柄でした。現場からの発案や導入は、運営側からの机上の対策ではなく、活きたプロセスからの効果となり、定着化できた大きな要因と考えています。

今回は、働きやすい職場環境づくりとして名誉ある賞を頂戴いただきましたが、施設としてはまだ途中過程であり、今後も働きやすい職場環境を研究すると共に入居者さんが向島美郷に来て良かったと思って頂けるような支援を行っていきたいと思います。

